
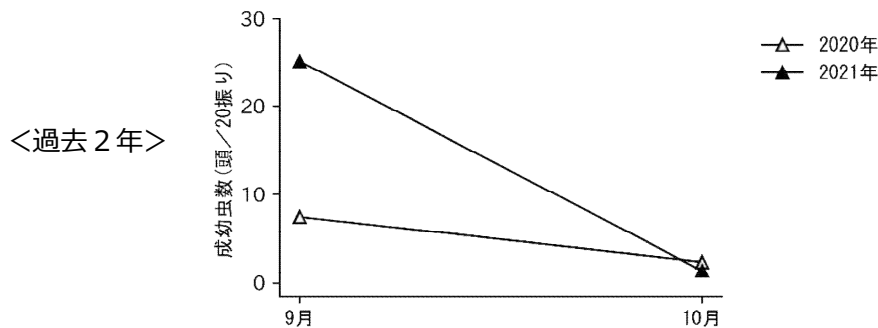
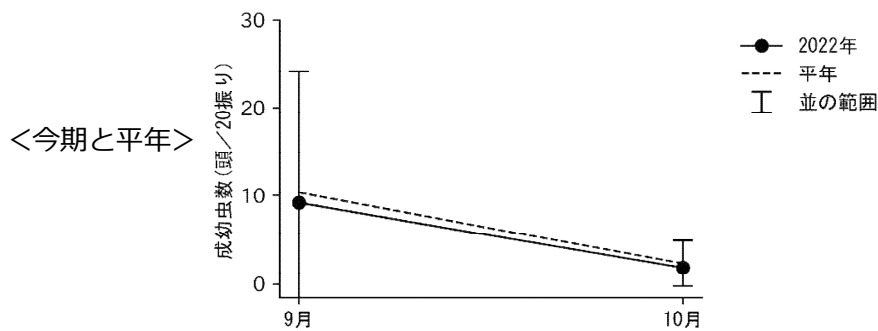


作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	セジロウンカ		
調査結果	10月の発生量（平年比）	並	
予報	10月からの増減傾向	—	
	11月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

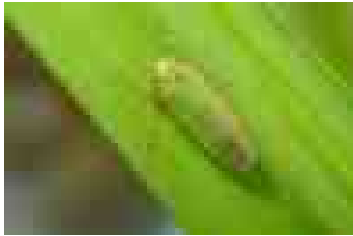
成幼虫数の推移



・発生ほ場率68.8%（平年：56.3%）

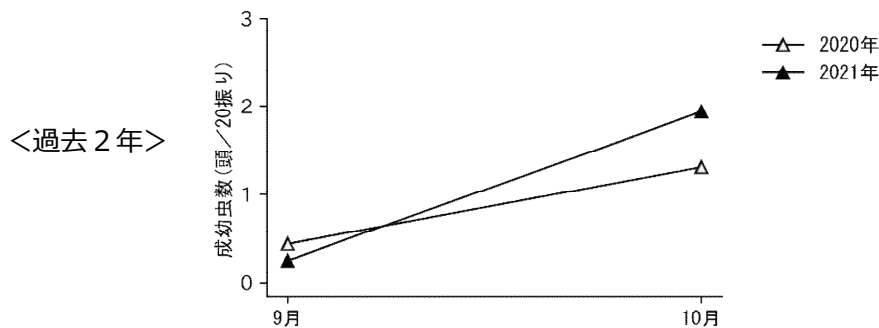
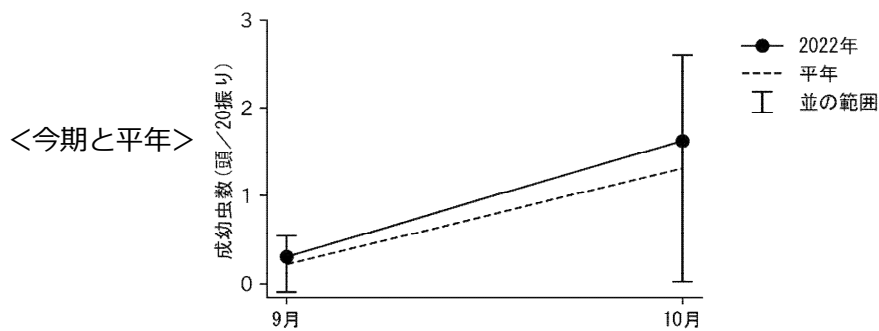
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	ツマグロヨコバイ		
調査結果	10月の発生量（平年比）	並	
予報	10月からの増減傾向	—	
	11月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：40.8%）

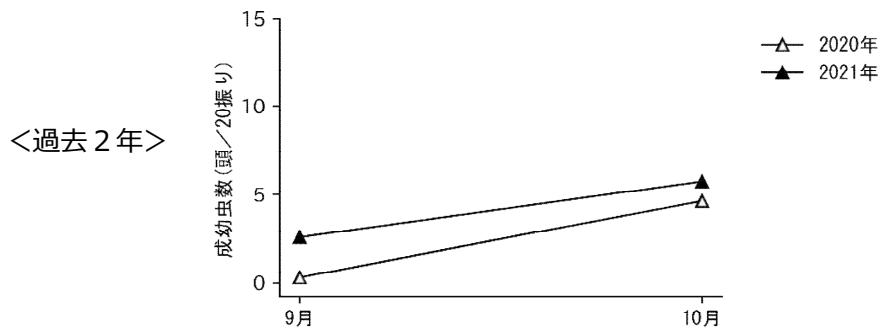
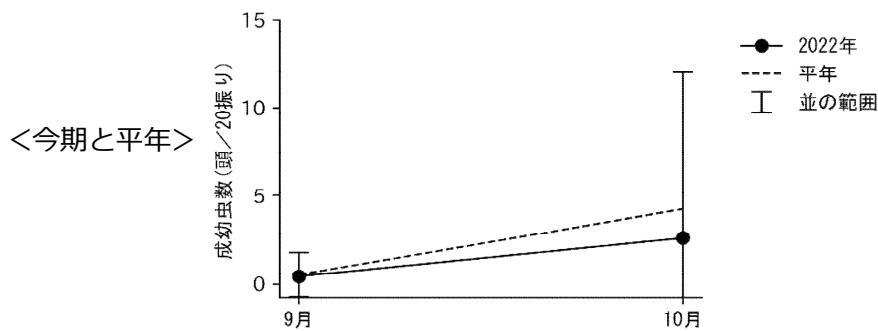
防除のポイント

・水田周辺の雑草防除を行い、発生源を少なくする。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	斑点米カメムシ類		 <p>ホソハリカメムシ</p>
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

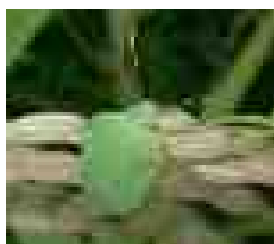
成幼虫数の推移



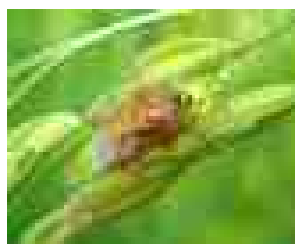
・発生ほ場率68.8%（平年：54.9%）

防除のポイント

・次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。




ミナミアオカメムシ



アカカメムシ

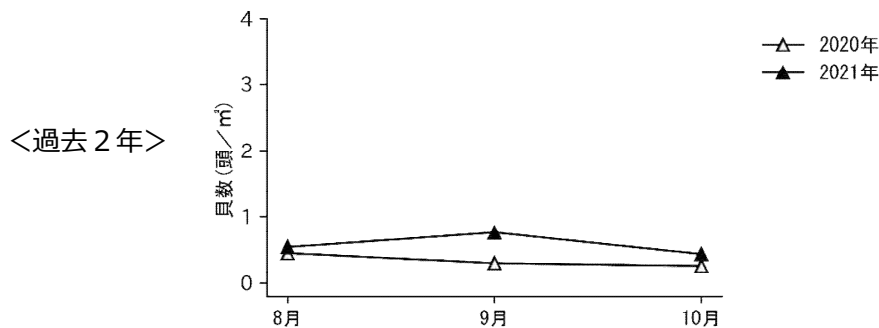
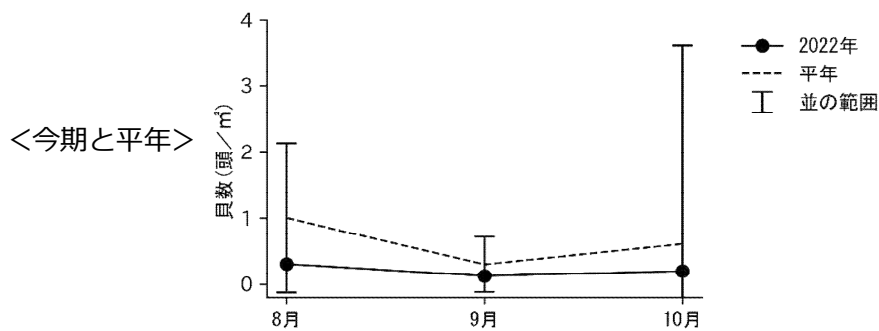


斑点米

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	スクミリンゴガイ		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


貝数の推移



・発生ほ場率71.4%（平年：24.6%）

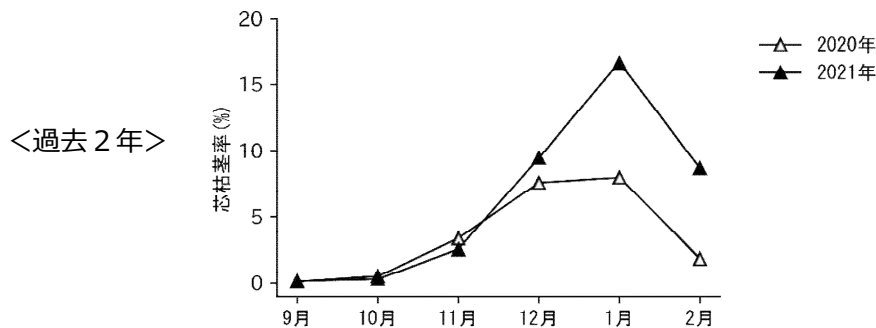
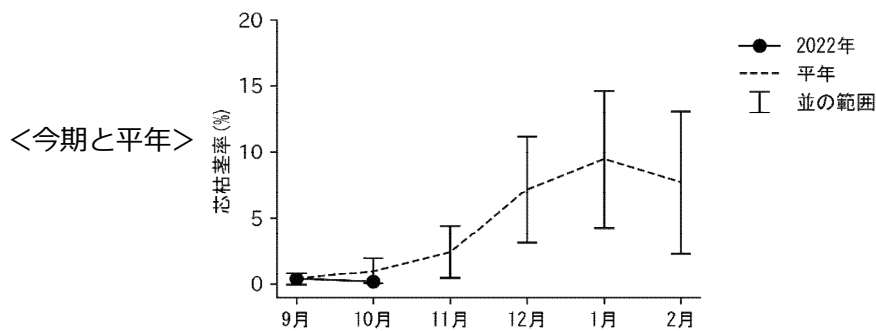
防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	さとうきび	地域	八重山群島	
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	10 月の発生量 (平年比)			並
予 報	10 月からの増減傾向			↗
	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類は、全てイネヨトウであった。
- ・ 発生ほ場率16.7% (平年 : 57.7%)

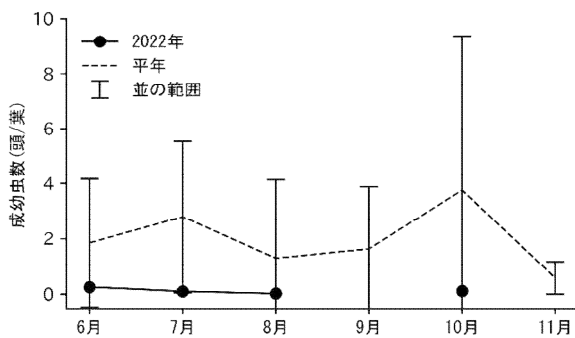
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

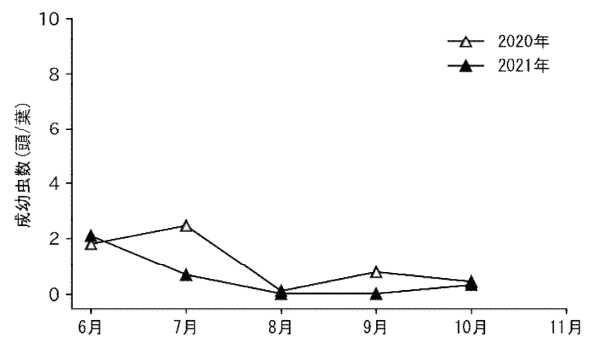
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	10 月からの増減傾向	↓	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

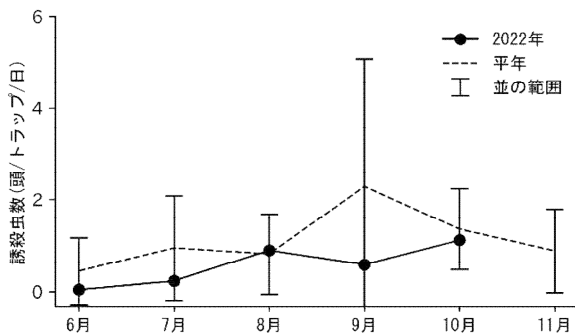
葉当たり成幼虫数の推移 (今期と平年)



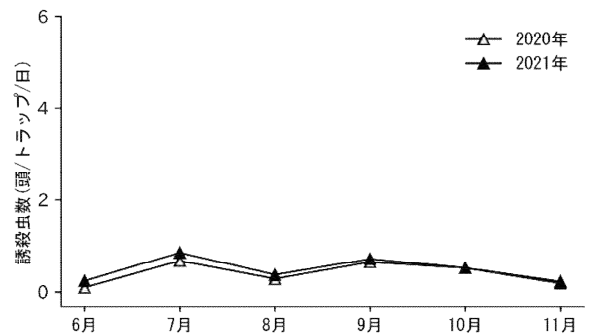
葉当たり成幼虫数の推移 (過去2年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (今期と平年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (過去2年)




・発生施設率100% (平年 : 67.4%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

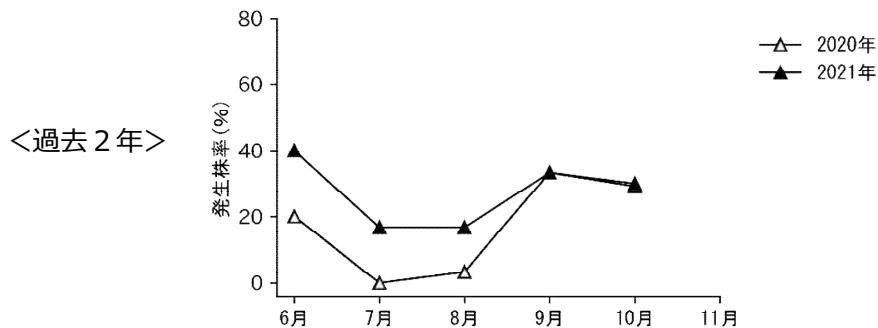
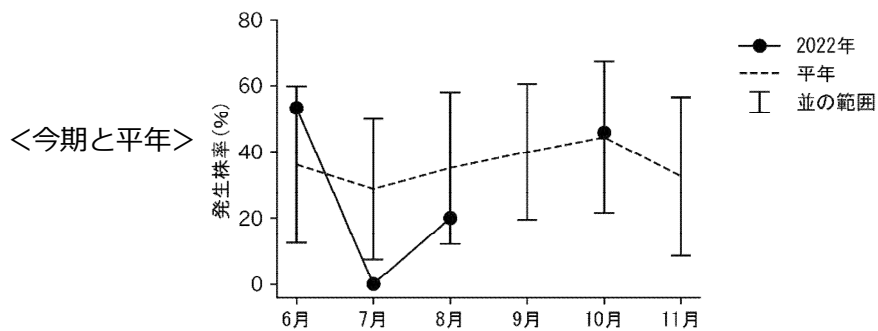


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↓	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

発生株率の推移




・発生施設率50.0% (平年 : 66.0%)

防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

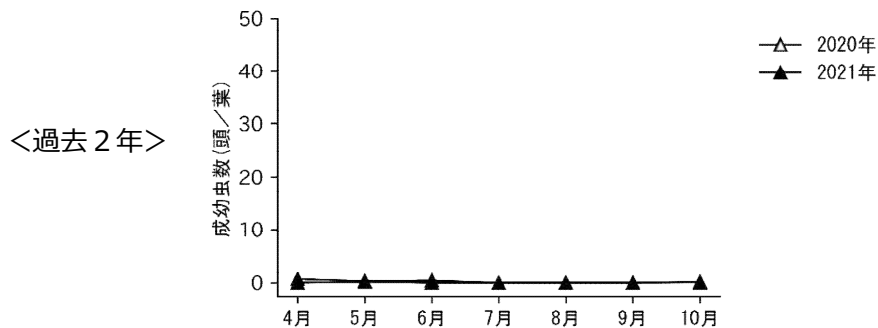
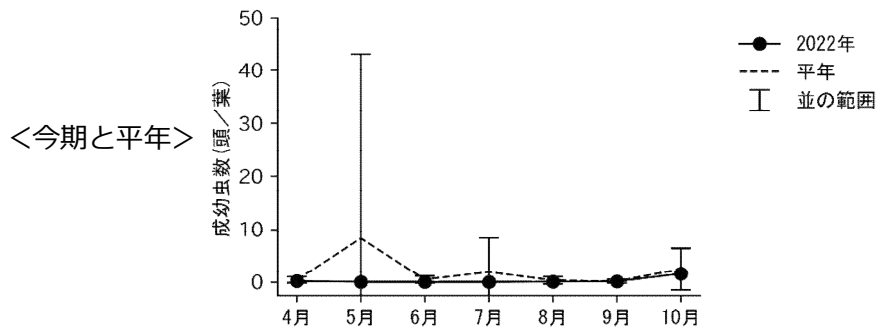


被害葉

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率80.0% (平年 : 59.2%)

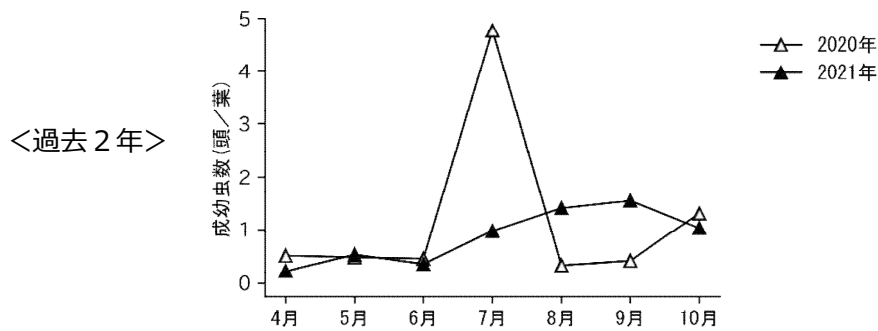
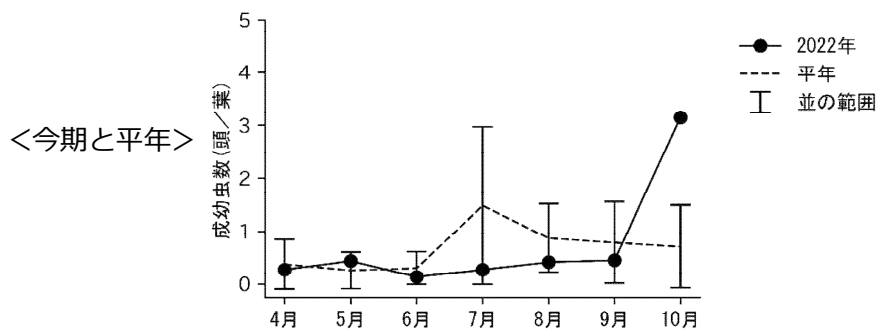
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 77.6%)、一部ほ場で多発

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

